

伊豆日日新聞

平成30年（2018年）2月25日（日曜日）

バイカモ保全へ日韓連携 GW三島がビジネス交流など提案

清流でしか育たない希少植物のバイカモ（梅花藻）の保全活動に取り組むNPO法人グラウンドワーク三島（GW三島、小松幸子理事長）は24日、「日韓バイカモ保全国際交流サミット」を三島市本町のVi a701で開いた。自然資源を生かしたビジネス連携に取り組むことにより、両国の交流をさらに深めることなどを盛り込んだ「日韓バイカモ保全市民交流宣言」を発表した。

2003年から交流がある韓国・江華島の「韓國ナショナルトラスト」と山梨県南野村、い宣言にまとめた。G.W三島専務の渡辺豊博さんは「25周年の軌跡と日韓バイカモ国際交流の未来像」をテーマに講演した。これまでの活動の中でも、バイカモ保全活動を続ける団体関係者が出席し、基調講演や各団体の活動報告、パネルディスカッションを行った。

バイカモは水の都・三島のシンボルである川のリトマス試験紙」と表現。条例制定による地元の下水保全の大切さなどを訴えた。

今後の取り組みとして、**「日韓バイカモビジネス交流事業」として、「相互の湧水を活用したマッコリの生産**」などを提案。「ビジネスでつながることで、両国の交流をさらに持続できる」と話した。

販売「三島ウナギ」の交流」「ヨモギ、バイカモ米の生産技術交

始めて5回目。江華島で開いた前回から7年以上が経過したことを受け、GW三島の設立25周年記念事業として開いた。国との交流をさらに持続できる」と話した。同サミットは07年に

流と相互販売拡大」などを提案。「ビジネスでつながることで、両国の交流をさらに持続できる」と話した。同サミットは07年に



基調講演する渡辺さん(右)=三島市本町のVi a701